

# JGA Golf Journal

JAPAN GOLF ASSOCIATION



## 新しいゴルフ 規則について

特集1  
2019年1月1日施行



# 特集 1

2019年1月1日施行

## 新しいゴルフ規則について

2019年1月1日から新しい規則が実施されます。この新しい規則は、規則そのものを変更するだけでなく、条項を使い易いように再構成し、文言もより易しく、近代にあったものに変更されており、すべてのゴルファーにとって読みやすい規則となっています。

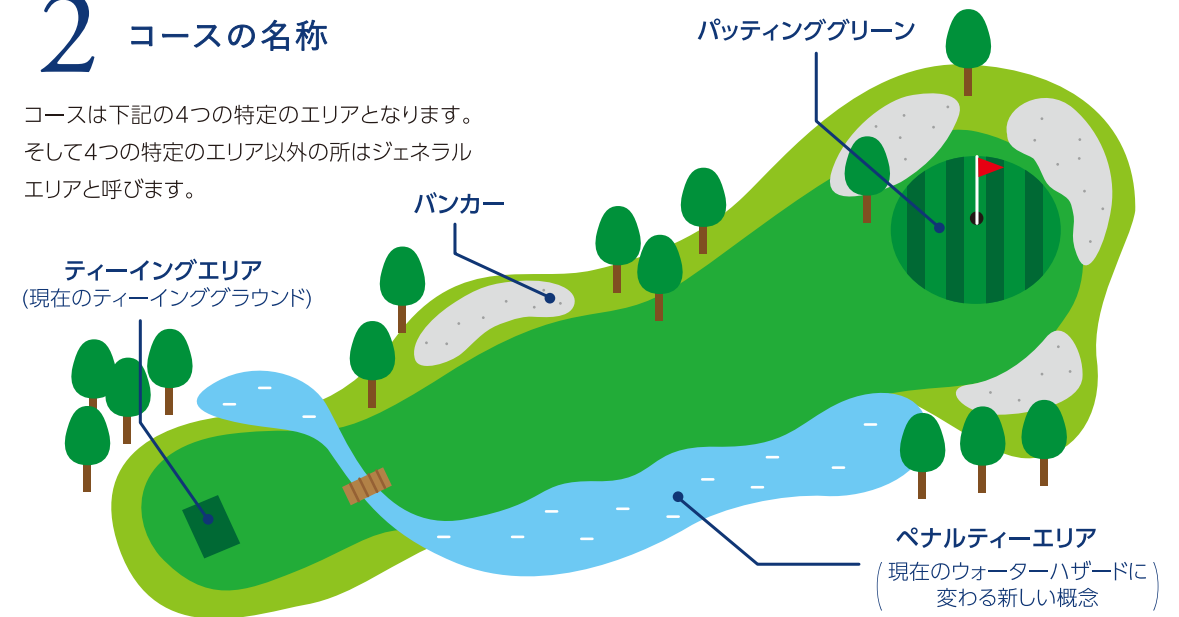
新しい規則はゴルフゲームをより分かりやすく、簡単にプレーすることができ、これからゴルフを始めるプレーヤーにとっても理解できるよう現在の規則と比べて大きく変わっています。その一方で、これまで以上にプレーヤーの責任を明確にし、プレーヤーの正直さ、誠実さを信じることを明記しています。また、スロープレーの問題を解決するために多くの規則が変わります。この新しい規則はこれまでと同様、世界統一の規則であり、プロゴルファー、アマチュアゴルファーを問わず、すべてのゴルフゲームのプレーに適用されます。委員会が競技によって規則が認めたローカルルールを採用することができますが、すべてのゴルファーが同じ規則でプレーするという方針に変わりはありません。現行規則からの変更箇所は多岐にわたっていますが、その中からプレーヤーがコース上でよく使う主な規則を解説いたします。

### 1 プレーヤーの行動

ゴルフはプレーヤー自身が規則を適用し、必要であれば自らに罰を課すゲームです。したがって、プレーヤーはゲームのすべての面で誠実で、正直でなければならないことが明記されています。そして規則もプレーヤーが合理的に行った判断をできるだけ尊重することも追記されています。また、委員会は独自の「行動規範」を作成し、それに違反したプレーヤーに1打、2打、失格の罰を課すこともできます。

### 2 コースの名称

コースは下記の4つの特定のエリアとなります。そして4つの特定のエリア以外の所はジェネラルエリアと呼びます。



### 4 距離計測機

原則として距離計測機器の使用をすることができます。一方、委員会はローカルルールで距離計測機器の使用を禁止することができます。距離計測機器で計測できるのは2点間の距離だけであり、高低差その他のプレーに影響する状況を計測することはできません。なお、距離計測機器にいろいろな計測機能がついていたとしても、2点間の距離を計測する機能以外のものを使用しなければ違反とはなりません。



### 3 クラブの損傷

プレーヤーがクラブを損傷してしまった場合の選択肢は2つだけです。そのまま使うか、プレーを遅らせることなく修理するか、のいずれかとなります。どのようにしてクラブが壊れたのか、そしてその損傷がどのような状態なのかは関係ありません。

### 5 速やかなプレーのペースの奨励

プレーヤーは通常、自分の順番となってから40秒以内でストロークを行わなければならない。また、ストロークプレーでは、安全が確保できるのであれば、球の位置に関係なく、準備ができたプレーヤーからプレーすることが奨励されます。これらのことを各プレーヤーが心がけることでゴルフを速やかにプレーすることができます。

## 6 球を捜す時間

球を捜す時間は現在の5分間から3分間に短縮されます。この変更はプレーのペースに役立つでしょう。

## 7 スタンスをとった後に後方に人を立たせる

スタンスを取り始めた後に人を後方に立たせることが禁止されます。例えば、フェアウェイから球をプレーするときに、キャディーを後方に立たせてスタンスをとった場合、その後でキャディーが別の場所へ移動したとしても一般の罰(マッチプレーはそのホール負け、ストロークプレーは2罰打)を受けます。この禁止はプレーのペースに役立つでしょう。



## 8 マーカーへの告知

規則に基づいて救済を受ける場合、マーカーに事前に知らせたり、立ち会わせる必要はありません。プレーヤーが規則に基づいて誠実に処置することが求められます。

## 9 捜索中に球を動かす

球を捜索中に自分の球を偶然に動かしてしまっても罰はなく、その球を元の位置にリプレイスしなければなりません。

## 10 ストロークした球が偶然に何かに当たる

ストロークした球が偶然に自分自身、自分のキャディー、用具に当たっても罰はありません。偶然に共用のカートに当たっても罰はありません。

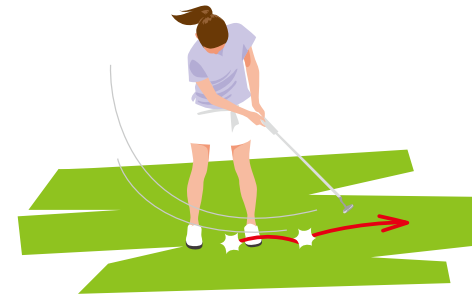


## 11 球を動かしたことの判断基準

球が動いた場合、プレーヤーが原因なのか、風、傾斜、その他が原因なのか判断が難しい場合があります。新しい規則ではプレーヤーが球を動かす原因となっていたと判断する場合の基準を「分かっているか、事実上確実」としています。「分かっている」は100%、「事実上確実」は95%以上の可能性を意味しています。つまりプレーヤーが動く原因となったかどうか疑わしい、95%以上の明確な証拠がない、ということであれば、プレーヤーが球を動かす原因となったものとは扱われません。

## 12 ストローク中に複数回球を打つ

例えば、偶然に2度打ちをしても罰はありません。そのストロークを1回と数えるだけです。



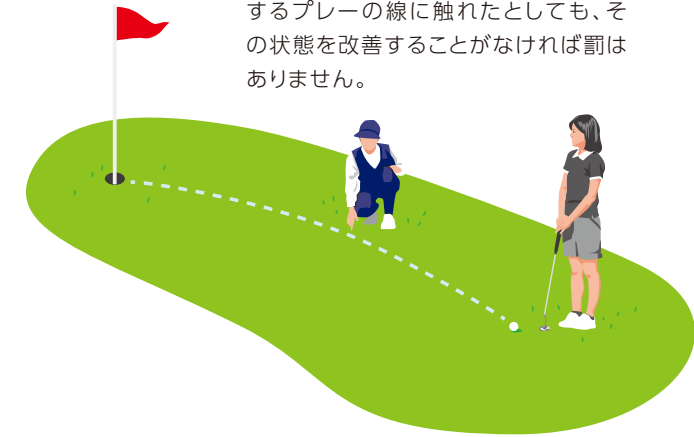
## 13 地面に食い込んだ球

球がジェネラルエリアに食い込んだ場合、罰なしに救済を受けることができます。例えば、球がラフの中の地面に食い込んだ場合も罰なしの救済を受けることができます。一方、委員会はこの救済をフェアウェイの区域にのみ限定するローカルルールを制定することもできます。



## 14 パッティンググリーンでのプレーの線に触れる

パットをした球が転がっていくと推定するプレーの線に触れたとしても、その状態を改善することがなければ罰はありません。



## 15 パッティンググリーン上の損傷箇所

パッティンググリーン上の損傷箇所を修理することができます。例えば、プレーの線上のスパイクマークを修理することができます。ただし、自然の凹凸やホールの摩耗を修理することはできません。



## 16 パッティンググリーン上の球を動かす

パッティンググリーン上にある自分の球を偶然に動かしても罰はなく、その球は元の位置にリプレイスしなければなりません。

## 17 パッティンググリーン上にリプレースした球が動く

パッティンググリーン上の球をマークして拾い上げて、元の位置にリプレースした球が偶然に動いた場合、その原因が何であったとしても、その球は罰なしに元の位置にリプレースしなければなりません。

## 18 パッティンググリーン上の球をキャディーが拾い上げる

パッティンググリーン上にある球をキャディーがマークして拾い上げる場合、プレーヤーの承認は必要ありません。

## 19 ホールに旗竿を立てたままプレーすること

ホールに旗竿を立てたままパットをして、その球が旗竿に当たっても罰はありません。つまりホールに旗竿を立てたままパットすることができます。このことは、長いパットを残したプレーヤーが誰かが旗竿に付き添ってくれるのを待つ時間を短縮できるでしょう。

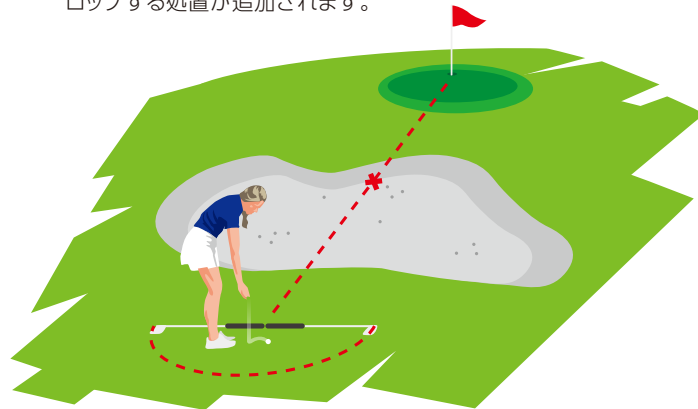


## 20 バンカー内のルースインペディメント

球がバンカー内にある場合、そのバンカー内のルースインペディメント(木の葉、枝、石などの自然物)に触れても罰はなく、取り除くこともできます。

## 21 バンカー内の球に対するアンプレヤブルの新しい選択肢

バンカー内の球に対するアンプレヤブルの処置に、現在の1罰打の処置の他に、2罰打で球とホールを結ぶ線上でそのバンカー外の後方に基点を決めて、その基点から1クラブレングス以内でホールに近づかない救済エリアに球をドロップする処置が追加されます。



## 22 ウォーターハザードに代わるペナルティーエリア

ウォーターハザードという概念はなくなり、新しくペナルティーエリアとなります。ペナルティーエリアは水域でない区域にも設定できます。例えば、球を探すことが困難で、見つかったとしてもプレーすることができないブッシュや崖などの区域をペナルティーエリアとして設定することができます。イエローペナルティーエリアは現在のウォーターハザードの処置をとることができ、レッドペナルティーエリアはラテラル・ウォーターハザードの処置をとることができますが、対岸での救済は廃止されます。またペナルティーエリア内の球をプレーする場合、クラブをソールしたり、ルースインペディメントを取り除くこともできます。

## 23 球の取り替え

規則に基づいて救済を受ける場合は球を別の球に取り替えることができます。カート道路、修理地、水溜まり、地面にくい込んだ球などの罰なしの救済の場合であっても球を取り替えることができます。

## 24 救済を受ける場合に使用するクラブレングス

規則に基づいてクラブレングスを計測する場合(例えば、救済のニヤレストポイントから1クラブレングス)、プレーヤーが持っている最も長いクラブ(パターを除く)で計測しなければなりません。救済処置によって短いクラブで計測することはできません。

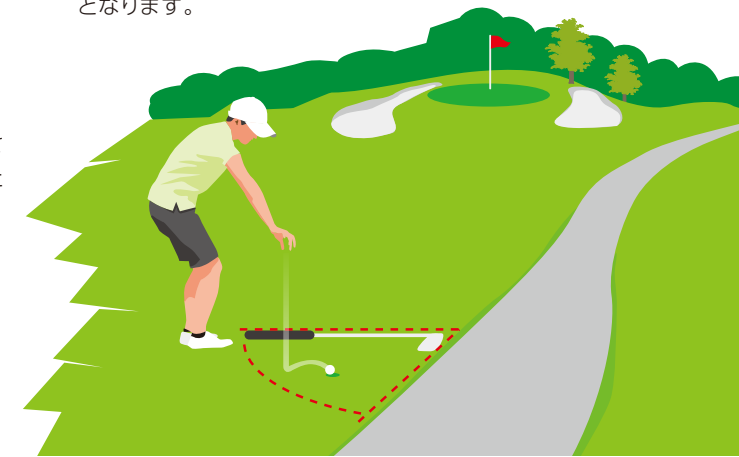
## 25 ドロップの方法

ドロップは膝の高さからドロップします。現在の肩の高さより低い所からドロップすることで球が大きく転がることを防ぎ、プレーの遅延を防ぎます。



## 26 再ドロップの要件

新しい規則では、それぞれの救済処置に救済エリアを設けています。例えば、カート道路からの救済の場合、救済のニヤレストポイントから1クラブレングス以内でホールに近づかず、その障害が避けられる区域を救済エリアと言います。ドロップした球はこの救済エリアに落ち、そしてこの救済エリアに止まらなければなりません。ドロップした球がこの救済エリアの外に出た場合は再ドロップとなります。



## 27 リプレースする箇所が分からない場合

規則に基づいて球をリプレースするときに、その場所が分からない場合、リプレースする箇所を推定してその球をリプレースすることになります。現行の規則ではドロップとなっています。

### 書籍について

2019年ゴルフ規則に関する書籍は11月頃の発刊を予定しています。2019年規則では次の3つの書籍が発刊されます。

#### ① ゴルフ規則書

すべてのゴルフ規則が掲載されていて競技運営者やレフェリーを対象としています。

#### ② ゴルフ規則プレーヤーズ版

ゴルフ規則の中でプレーヤーがコースで使う規定に絞り、図を掲載し、より読みやすい表現で書かれています。すべてのゴルファーがこのプレーヤーズ版を携帯してコースに行くことが期待されます。

#### ③ ガイドブック(仮称)

ローカルルールや競技運営のガイダンスをまとめた委員会用の本です。

ゴルフ規則書の日本語訳の案はJGAホームページに掲載されています。

# スロープシステムの更なる普及に向けた キーワードは地域とジュニア

現行のJGAハンディキャップシステム(USGAハンディキャップシステム準拠、通称スロープシステム)は5年目を迎えた。昨年全倶楽部競技にスロープシステムを導入した嵐山カントリークラブ(埼玉県)では更なる普及に向けて新しい形を模索している。キーワードは地域とジュニア。岡田光正競技委員会委員長、池田憲治ハンディキャップ(HDCP)委員会委員長、角卓HDCP委員会副委員長、岡田光史HDCP委員会副委員長、永田浩一所属プロ兼キャディマスター代行に話を聞いた。



左から永田浩一所属プロ兼キャディマスター代行、岡田光史HDCP委員会副委員長、岡田光正競技委員会委員長、池田憲治HDCP委員会委員長、角卓HDCP委員会副委員長

—— 嵐山CCでは2017年からすべての倶楽部競技にスロープシステムを導入したと伺いました。まずは導入までの流れをお聞かせください。

岡田 光正 導入に向けての議論を始めたのは15年5月です。当時、私はHDCP委員会の委員長を務めておりまして、まずはHDCP委員に理解してもらおうと月1回の委員会で勉強会を始めました。翌6月には倶楽部の会報にスロープシステムの簡単な説明を掲載し、会員みなさんにご理解をいただくという形をとりました。嵐山CCの現社長(吉田裕明氏)からは「いいシステムだからやろう」と

積極的な指示をいただいておりますので、非常に進めやすかったです。準備期間を経て16年3月の春分の日杯で試験的に導入。17年からは全倶楽部競技に広げた次第です。池田 日本は倶楽部の中で決めたHDCPを使用して倶楽部競技を行うという土壌でしたので、最初は会員みなさんに理解していただけるだろうかという心配はありました。それに、毎月HDCPが変動することで混乱を招くのではないかと懸念もありました。でも、我々HDCP委員で手分けして会員みなさんに説明するなどして、徐々に理解が広がっていったと感じました。

角 当時、私はハウス委員会にいたのですが、私の周囲では最初は「何だかよく分からないな」という声がありました。今でも仕組みまで完全に理解している会員は少ないと思います。でも、HDCPインデックスを活用してプレーすることを楽しむ会員は確実に増えています。換算表を見ながら「先月は君にHDCP2枚あげていたけど、今月は1枚か」といった会話がよく聞こえてきますよ。

—— 試験的に導入した16年の春分の日杯はどのような様子でしたか。

池田 1年近くかけて啓蒙活動をしていましたので、「これは何だ?」という方はいませんでした。むしろ「いよいよ始まったか」という雰囲気でした。スコアカード提出所にはHDCP委員が駐在して不明点などあればお答えする態勢をとっていました。それに、事務局が参加者のその日のコースHDCPがひと目で分かる一覧表をつくるなどしっかりした準備をしてくださり、非常にスムーズにいききました。



—— 事務局が行った準備を詳しくお聞かせいただけますか。

永田 初めてのことでしたから参加者のみなさんがとまどうことがないよう、その日のコースHDCPをうまくお知らせできる方法がないかと考えました。そして換算表から参加者の使用ティー別のコースHDCPを調べて一覧表を作成。その一覧表をフロント、ロッカー、ラウンジ、マスター室、スコアカード提出所に設置し、どこでも自分のコースHDCPを確認できるようにしました。さらに、キャディ伝票にもコースHDCPを記入してプレー中でも確認できるような態勢をとりました。現在もこのシステムは継続しており、会員みなさんは来場するとまず一覧表をチェックしてくださっています。

【ハンディキャップの歴史】(概略)

年代	欧米	日本
17世紀後半	HDCPの概念が広まり始める	
1900年頃	英国女子連盟が初のCR開発	
1911年	USGAが初めてCR導入 (全米アマ優勝者のスコア)	
1920年代~	全米各地区でHDCP システムの改善策考案	1950年代 JGA HDCP制度導入 (USGA制度を参考に開発)
1960~70年代	USGAが 障害難易度査定法を考案 現行HDCP制度の基礎完成	1978年 旧JGA制度施行 (USGA制度を参考に開発)
1979年	USGAがスロープシステム 開発着手	
1987年	USGAがスロープシステム 正式施行	
2010年~	現在世界約60の国と地域で採用	2010年 スロープ導入決定 (USGAとJGAが正式契約締結)
2014年~		スロープシステム施行 (USGAハンディキャップシステム準拠)

CR=コースレーティング

岡田 光正 事務局も初めてのことでしたが、本当によくやっていただきました。

—— スロープシステム導入後、倶楽部競技での上位入賞者に変化はありましたか。

岡田 光正 HDCPの多い方や女性など、以前はあまり入賞できなかった会員が上位に来ることが増えてきました。岡田 光史 マッチプレーで行う理事長杯は70歳以上の方がベスト4を独占しましたね。以前は人が決めるHDCPだったために入会間もない方がHDCPの調整がうまくつかないまま多めのHDCPで出場して優勝するというケースが少なからずありました。その点、HDCPインデックスはその時の自分の実力が客観的に反映されたものですから公平性が高い。かつて倶楽部選手権で上位に入っていたような方々が倶楽部HDCPからHDCPインデックスに移行したことで今の自分の実力を出せば勝ち上がっていけるように変化したと感じました。

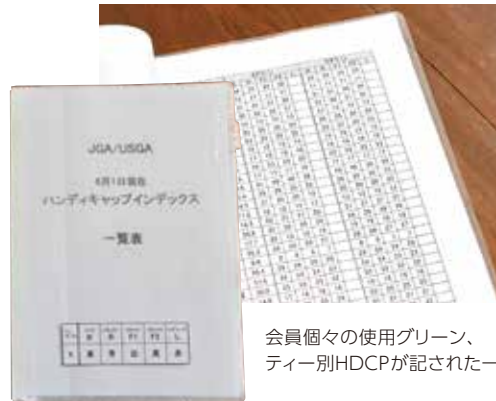




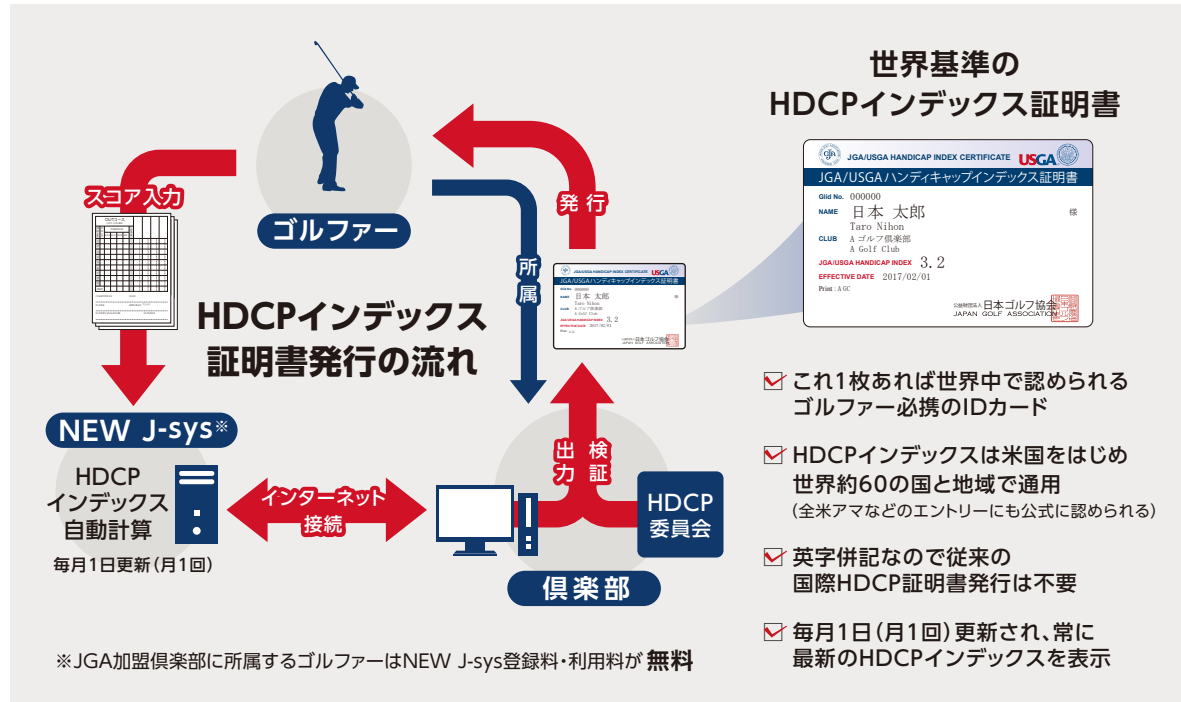
**岡田 光史** かつての倶楽部HDCPは倶楽部内での融和を図るために有効なものでした。一方でスロープシステムは他倶楽部や地域でのコミュニケーションをとるという意味で非常に重要なものだと感じています。地域でのコンペや競技にもっと活用していけばHDCPインデックスを持つ必要性が分かってもらえるのではないのでしょうか。強いて例えれば、関東倶楽部対抗のような大会にアンダーHDCPの部があるような。

—— スロープシステムをより活用していくための方法や競技など何か検討していることはあるでしょうか。

**岡田 光正** スロープシステムへの理解をさらに深めていただくためにHDCPインデックスを使って楽しんでもらえる競技を考えていく予定です。たとえば、HDCPインデックス別にいくつかのクラスに分け、それぞれのクラスでスクラッチ競技を開催する方法もあると思います。HDCPの多い方はスクラッチ競技をやったことがあまりないと思いますので、新しい体験をしていただけるのではないかと考えています。



会員個々の使用グリーン、  
ティー別HDCPが記された一覧表



—— 関東倶楽部対抗は基本的にトップクラスのプレーヤーが倶楽部の代表となりますが、HDCPインデックスをうまく活用できればアベレージクラスの方も倶楽部代表として大舞台でプレーできる可能性が出てきますね。

**岡田 光史** そう思います。私は、スロープシステムの普及には2通りあると考えています。ひとつは個人でHDCPインデックスを持つこと、もうひとつは倶楽部として競技で導入することです。倶楽部競技に導入しているところはここ埼玉県ではまだ少ないのですが、HDCPインデックスを持っているプレーヤー自体は結構いるのではないかと感じています。



—— NEW J-sys登録者は現在、全国で約60万人です。

**岡田 光史** この60万人をどう動かしていくかがより普及させるための課題だと思います。

**角** 人数の多いHDCPインデックス10~20あたりの層にいかに関心を持ってもらうかも大事でしょうね。

**岡田 光史** 地域だけではどうすべきか分からない可能性がありますので、JGAから地域でできる仕組みのモデルケースを発信していただければありがたいと思います。

—— ご提案ありがとうございます。ほかにもご意見が



16年春分の日杯で使用したスロープシステムに関する説明書



ありましたらお聞かせください。

**岡田 光史** 私は子供のころからHDCPインデックスを持つことを習慣づけることが重要だと考えています。ジュニアゴルファーは全員がプロになるわけではありません。プロにならなかった子供たちが社会人になったときにすでにHDCPインデックスを持って活用しているということが普及の源になるのではないのでしょうか。たとえば日本ジュニアの出場資格は「NEW J-sys登録者」というだけで、具体的にHDCPインデックスいくつ以内というのがありません。具体的な数字を設けることで子供たちのHDCPインデックスへの意識は高まると思います。それに、HDCPインデックスを用いたジュニアの大会があってもいいのではないのでしょうか。日本ジュニアを目指していても関東の選手なら関東ジュニアで落ちてしまえば夏休みの試合がなくなってしまいます。そういった子供たちを救済する意味でもHDCPインデックスを用いた大会があってもいいと思います。先ほど岡田競技委員長が提案していたHDCPインデックスでクラス分けした中で、スクラッチでプレーするような形でもいい。とにかく子供のころからHDCPインデックスに親しめる環境を整えることが必要だと考えています。

**岡田 光正** せっかく始めたスロープシステムですから、しっかりと普及して行ってほしいものです。嵐山CCでも導入後に会員のみさんから「(ネット)アンダーで回れたよ」といった喜びの声を伺っていますし、とても楽しんでおられる方が多いと感じます。私自身も非常に公平でいいシステムだと思います。私たちも倶楽部や地域でより楽しめる方法を考えていきたいですし、JGAさんももっと宣伝して広めて行ってほしいと願っています。

—— 貴重なご意見、ありがとうございます。

# ゴルフ界の諸課題の解決に向けて 「オールジャパン」で臨む

1月17日のゴルフ新年会で竹田恒正JGA会長と倉本昌弘PGA会長による特別企画講演を開催しました。  
そこではゴルフ人口の減少などさまざまな問題の解決に向け、  
日本ゴルフ界が団結した「オールジャパン」の体制で取り組んでいく基本方針を発表しました。  
ここでは竹田恒正JGA会長が語った、現行の取り組みの成果と今後の展望について紹介します。



テニスや卓球、スケートなどの競技でも明らかなように、世界で活躍するプレーヤーの出現がその競技が盛り上がる大きな要因になっています。ゴルフでは現在、松山英樹選手がUSPGAツアーで活躍して注目を集めていますが、AONや倉本昌弘選手の時代と比べると松山選手以外のプロ選手の世界でのプレゼンス(存在感)が弱まっていると感じています。

日本選手が世界でのプレゼンスを高め、日本ゴルフ界を再び盛り上げるにはどうすべきか。私は2020年の東京五輪ゴルフ競技が開催される霞ヶ関カンツリー倶楽部で日本選手がメダルを獲得することこそが最高の契機になると確信しています。

東京五輪にはその国の一番強い選手、つまりはプロが日本代表として出場することでしょう。しかしながら、メダル獲得のためにはプロの強化だけでなく、ジュニア有望選手の発掘育成からの継続的な強化が絶対に必要であり、プロとアマの垣根をなくした、まさに「オールジャパン」で取り組むべき問題なのです。

JGAではかねてから男女ナショナルチームを組織して強化を図ってきました。2015年からは更なる飛躍を図るため、オーストラリアからガレス・ジョーンズ氏をヘッドコーチに招聘しました。同氏を中心としたコーチングスタッフにより科学的な根拠に基づいたスウィング理論、フィジカル、コースマネジメント、メンタルなど

多岐にわたる世界水準の強化プログラムによるトレーニングを実施し、その成果が国際競技での好成績となって表れています。

まずジョーンズ氏就任直後、2015年のノムラカップアジア太平洋アマチュアチーム選手権で26年ぶりの優勝を果たしました。2017年にはネイバーストロフィーチーム選手権で13年ぶりの男女アベック優勝。同大会では今年、男子が初めての連覇を飾っています。また、昨年の日本オープンではナショナルチームの金谷拓実選手が1打差2位に食い込み、今年1月のオーストラリアンアマでは男子が中島啓太選手、女子は山口すず夏選手と男女ともに日本選手が優勝する快挙を成し遂げました。昨年、日本女子オープンで連覇を飾った畑岡奈紗選手や勝みなみ選手、新垣比菜選手ら現プロのいわゆる黄金世代もナショナルチーム出身。若手が着実に育っています。

これらの成果を踏まえ、JGAではジョーンズ氏のもと、プロ3団体とともに若年層の発掘育成、ナショナルチームの強化、ルーキープロへの支援、五輪強化指定選手、五輪代表選手までを一気通貫で育成する新しい「選手強化プログラム」の構築を決定いたしました。まずはPGAと連携し、ジョーンズ氏の方針を受け継いだ「指導者育成」に着手して、小学生やジュニアなど若年層の選手を指導するコーチングスタッフが全国に行きわたるよう計画しています。

日本ゴルフ界が活況を取り戻すための選手強化事業には多くの資金が必要です。財源についてはゴルフファアからの寄付金や企業からの協賛金を募り、「オールジャパン」で進めていきたいと考えております。ゴルフファア、企業の皆様のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。



選手の育成強化 日本代表支援 **寄附金募集中!!**

## 世界へ羽ばたけ ゴルフ日本代表



国際競技において、活躍できる選手の育成強化並びに国際競技への日本代表選手派遣のため、  
**皆様のサポートをお願いいたします。**

### 募集対象

- 1 選手強化プログラムの構築
- 2 国際競技への日本代表選手の派遣や強化合宿の実施
- 3 指導者育成強化プログラムの構築

御礼について ご寄附いただいた方へは、金額に応じた御礼を用意させていただきます。

寄附金申込 クレジット決済と銀行振込からお選びいただけます。  
[www.jga.or.jp/jga/html/donation](http://www.jga.or.jp/jga/html/donation)



《 本件に関するお問い合わせ先 》  
公益財団法人日本ゴルフ協会 総務・管理部 Tel. 03-3566-0003

公益財団法人日本ゴルフ協会

選手の育成強化 日本代表支援 協賛社 ・ 三菱商事

